三菱造船、内燃機、電機部

	七月二十九日 出勤者数	定員（六月末現在調）
造船部	二、〇五八	八、二六九
内燃機	二九六	八六六
電気部	三一六	一、一一八
合計	二、六七〇	一〇、三五三

本日ヨリ市内七宮参拝ニ決定シ川崎造船ト共ニ廿五日（七八）参拝ヲ敢行ス
経過ハ十分モ工場附近ニ於テハ全部警官ヲ以テ阻止セラレ
出勤阻止者ト目スベキモノ十三名検束セラレタリ
新聞ハ其中ニ神社参詣ニ赴ク事ニナリ居タルモ途中ニ
全部出勤（川崎ニ於ケル）監視隊ノ如キモノハ殆ンド姿ヲ見セザリシ

遂に衝突、警官拔劍す

新開地隧道上に流血の慘事

傷者職工側十數名、警官側に七名を出す

電氣局階上より釘付き板片を投じたのが動機で此椿事を生む

本邦勞働界の大問題として天下の耳目を聳たしめつゝある川崎三菱兩造船所の勞働爭議は川崎休業明けの第五日目、三菱所の第一日たる今廿九日午前、端無くも川崎參拜團と警官隊との大衝突を惹起し流血の慘事を演出するに至れり今其顛末を報ぜんに當日午前九時半、川崎爭議團一万三千の職工は前日に引續き生田神社へ集合、熱誠を捧げ更に三宮神社に參拜を終へ夫より鐵道線路山側に沿ひ西し宇治川を市電筋に前より揃紅東門へ繰込まんとして警官隊の阻止する所となり止むなく揃て參拜を見合せ南下、相生町に出で茲にても又警官隊に食ひ止められしが諒解を得て無事通過、七宮神社に詣づべく相生町本町筋を西せんとし先頭の約三千名が通過せし際、湊町電氣局階上より何者とも知れず石炭箱樣の釘付き板片を投下せしものあり、爲めに爭議團の後續隊は危險なりと進行を止めたる後へ〳〵ワッショ〳〵の懸聲諸共方に餘る職工押し寄せ來り忽ち一大集團を造りし所へ先進の三千名も何事ならんと引返し大混亂に陷り押され〳〵て新開地大通りを南へ潮の如く流れ出、隧道上にて相生橋署警官二四十名の警戒線へ崩れ寄り自然二三の警戒線を突破するとなり官隊との衝突となり殺氣立てる大集團中に騎馬巡査は揉み込まれの状態となりたれば騎馬巡査は遂に拔劍を命じたるにて殆ど名状すべからざる大混亂大亂鬪となり凄愴なる一大修羅場を現出するに至りたり、此衝突にて職工側は

兵庫分工場機械工常峰俊一、電氣部社、兵庫分工場鑄造部金山、造船部殿枝友二郎、同前原正雄、岩本彦照、松本源三郎、梅谷梅吉、外十數名の傷者を出し

中に一名生命危篤の重傷者を生じ警官側亦

巡査清水松之助（頭部に治療一週間の打撲傷）同署大道勝雄（同上）同署渡邊芸之助吉松清次 同署騎馬巡査部長大久保昭松、同部築徳太郎、和田山署巡查竹田松太郎（以上輕微の打撲傷）

の負傷者を生じたる大椿事に市内各署の警戒隊一齊に驅け付け職工側は七の宮神社に退却し辛くも鎭靜を見たるが此際職工側の檢束者貳百名を算したり、因に當時現場附近に居合せし大阪毎日新聞記者も此亂鬪の渦中に捲き込まれ負傷せりと

尚通行人其他傷を負うたものも數十名に達したが湊町一丁目一の三後藤たい方ラムネ行商人今崎松太郎は前記衝突場附近で行商中此格鬪に驚き自宅に逃込んだが拔刀した警官は後から追掛け右腕に斬付け重傷を負はせ店頭を打壞した